

2014年度学部間共通科目運営委員会 自己点検・評価報告書

第1章 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	
(1) 付属機関等の理念・目的は適切に設定されているか						
a ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的(建学の精神、教育理念、使命)を踏まえて、当該付属機関・委員会の理念・目的を設定していること。【約500字】	<p>社会や組織の中にあっても、世界を見据えて自らの使命、役割を自覚し、他者との「連携・共生」をはかりつつも、「個」として光り輝く人材を育成するため、明治大学の各学部設置される共通科目(教育の情報化推進本部、日本語教育センター、資格課程委員会及び学部間共通外国語教育運営委員会のそれぞれが運営する授業科目を除く。)の授業計画を立案し、及びその円滑な運営を図る【1-48-1, 1-48-2】</p> <p>本委員会の中心的な検討対象である学部間共通総合講座は、この教育理念・目的に基づいたカリキュラムの編成をしており、学部設置のカリキュラムを基礎としながら、なお学部や文理の枠を越えた学際的講義を学生に積極的に提供することにより、幅広い学問的視野や問題発見能力、判断能力を培うことを主眼に置いている。【1-48-3 3頁】</p> <p>① 理念・目的の明確化 「明治大学学部間共通科目運営委員会規程」において、本委員会の目的及び設置について明記している。【1-48-2: 第1条】</p> <p>② 実績や資源から見た理念・目的の適切性 本委員会ではこれまで、学部間共通総合講座、共通語学科目及び選択体育実技(以下、各科目群)について、授業計画の立案及びその運営を行ってきており、その実績から見て本委員会の理念・目的の適切性は確保されている。【1-48-4】</p>					1-48-1 明治大学ホームページ「大学案内 > 建学の精神と使命」 http://www.meiji.ac.jp/koho/information/mission/mission.html 1-48-2 明治大学学部間共通科目運営委員会規程 1-48-3 2014年度学部間共通総合講座シラバス 1-48-4 学部間共通総合講座運用内規
(2) 付属機関等の理念・目的が、教職員及び学生に周知され社会に公表しているか						
a ◎公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること【約150字】	① 構成員に対する周知方法と有効性 M I C S (教職員対象の学内情報共有サービス)において委員会規程を公開している。					1-48-2 明治大学学部間共通科目運営委員会規程
(3) 付属機関等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか						
a ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。【約300字】	年度第1回目の委員会において、理念・目的を確認している【1-48-5】。					1-48-5 第1回学部間共通科目運営委員会議事録(2014年6月17日)審議事項2「2015年度学部間共通総合講座授業計画策定方針について」

2014年度学部間共通科目運営委員会 自己点検・評価報告書

第2章 教育研究組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	
(1) 付属機関等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか						
a ①教育研究組織の設置状況は理念・目的に照らし、適切であるか。学術の進展や社会の要請と教育との適合性について配慮したものであるか。 ●教育研究組織は、当該大学の理念・目的を実現するためにふさわしいものであるか。 【約300字】	共通科目の授業計画の立案及び円滑な運営を行うため、全学部から委員を選出するとともに、教務部委員会が必要と認めた各科目群の科目を担当する専任教員を選出し、学部横断的な組織として編成、運営されている。 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織している。【2-48-1 第3条】 1) 教務部長 2) 教務部長が指名する副教務部長1名 3) 各学部の教授会から推薦された専任教員各1名 4) 教務部委員会が必要と認めた授業科目を担当する専任教員若干名 上記「1 目的・目標 (1) 教育研究組織の編成方針」に基づいた委員構成となっており、委員会組織は理念・目的に照らして適切なものとなっている。					2-48-1 明治大学学部間共通科目運営委員会規程《既出1-2》
(2) 付属機関等の教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか						
a ●教育研究組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。 ●その検証プロセスを適切に機能させて、改善に結びつけているか。 【約500字】	年度第1回目の委員会において、本委員会の委員構成を確認しているが、改善すべき点は指摘されていない【2-48-2】。					2-48-2 学部間共通科目運営委員会議事録(2014年6月17日)《既出1-5》

2014年度学部間共通科目運営委員会 自己点検・評価報告書

第3章 教員・教員組織

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述		
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を 評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください					Alt+Enterで箇条書きに	
(1) 付属機関として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか							
a	●<教員像と教員組織の編制方針> 専門分野に関する能力、教育に対する 姿勢等、大学として求められる教員像を 明らかにしたうえで、当該付属機関の理 念・目的を実現するために、教員組織 の編制方針を定めているか。また、その 方針を教職員で共有しているか。 【約400字】	センター、委員会等の求める教員像及び教員組織の編制方針は以下 のとおりである。 ア) 総合講座 講座担当者は、本学教職員に加え、当該分野において、特に優れた 知識及び経験を有する学外からの専門家を講師として招聘し、複 数の講座においてこれを担当させる。【3-48-1 第3条】 「学部間共通総合講座運用内規」及び「2014年度学部間共通総合講 座について」において、コーディネーター、講座担当者及び講座開 講申請について明記している。【3-48-1 第2～6条、3-48-2】 イ 共通語学科目 学部設置科目のため、各学部による。 ウ 選択体育実技 学部設置科目のため、各学部による。					3-48-1 学部間共通総 合講座運用内規《既出 1-4》 3-48-2 「2015年度学部 間共通総合講座の開講 について」(2014年6月 24日開催教務部委員会 資料No.6)
b	◎<組織的な連携体制と責任の所在> 組織的な教育を実施する上において必 要な役割分担、責任の所在を明確にし ていること。 【約300字】	ア 総合講座 講座に係る責任について、「学部間共通総合講座運用内規」及び 「2014年度学部間共通総合講座について」において、コーディネ ーター、講座担当者及び講座開講申請について明記している。【3- 48-1 第2～6条、3-48-2】 イ 共通語学科目 学部設置科目のため、各学部による。 ウ 選択体育実技 学部設置科目のため、各学部による。					3-48-1 学部間共通総 合講座運用内規《既出 1-4》 3-48-2 「2015年度学部 間共通総合講座の開講 について」(2014年6月 24日開催教務部委員会 資料No.6)
(2) 付属機関等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか							
教員の編制方針に沿った教員組織の整備							
a	◎方針と教員組織の編制実態は整合 性がとれているか。 【600～800字】	① 編成方針に沿った教員組織の整備 ア 学部間共通総合講座 「学部間共通総合講座運用内規」に基づいて学外講座担当者を任用 している。 【3-48-1 第3条】 イ 共通語学科目 学部設置科目のため、各学部による。 ウ 選択体育実技 学部設置科目のため、各学部による。					資料3-48-1 学部間共 通総合講座運用内規 《既出1-4》
教員組織を検証する仕組みの整備							
b	●教員組織の適切性を検証するにあ たり、責任主体・組織、権限、手続を明確 にしているか。また、その検証プロセス を適切に機能させ、改善につなげてい るか。 【600～800字】	② 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備 ア 学部間共通総合講座 新規の学外講座担当者の任用審査については、コーディネーター所 属学部教授会での審議を経て、学部間共通科目運営委員会及び教務 部委員会に報告している。 【3-48-1 第5条第3項、3-48-2】 イ 共通語学科目 科目担当者の任用審査は、学部設置科目のため、各学部による。 ウ 選択体育実技 科目担当者の任用審査は、学部設置科目のため、各学部による。					3-48-1 学部間共通総 合講座運用内規《既出 1-4》 3-48-2 「2015年度学部 間共通総合講座の開講 について」(2014年6月 24日開催教務部委員会 資料No.6)

2014年度学部間共通科目運営委員会 自己点検・評価報告書

第3章 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
(3)教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか							
a ●<規定に沿った教員人事の実施> 教員の募集・採用・昇格について、基準、手続を明文化し、その適切性・透明性を担保するよう、取り組んでいるか。 【400字】	① 教員の募集・採用・昇格等に関する規程及び手続きの明確化 ア 学部間共通総合講座 「学部間共通総合講座運用内規」及び「2014年度学部間共通総合講座について」において、新規の学外講座担当者の任用手続について明記している。 【3-48-1第5条第3項, 3-48-2】 イ 共通語学科目 学部設置科目のため、各学部による。 ウ 選択体育実技 学部設置科目のため、各学部による。 ② 規定等に従った適切な教員人事 ア 学部間共通総合講座 「学部間共通総合講座運用内規」及び「2014年度学部間共通総合講座について」に基づいて、新規の学外講座担当者の任用手続を行っている。 【3-48-1 第5条第3項, 3-48-2】 イ 共通語学科目 学部設置科目のため、各学部による。 ウ 選択体育実技 学部設置科目のため、各学部による。						3-48-1 学部間共通総合講座運用内規《既出1-4》 3-48-2 「2015年度学部間共通総合講座の開講について」(2014年6月24日開催教務部委員会資料No.6)

2014年度学部間共通科目運営委員会 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 1.教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述		
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>							
(1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。							
a	<p>◎理念・目的を踏まえ、課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件(卒業要件・修了要件)等を明確にした学位授与方針を設定していること。 【約800字】</p>	<p>修得すべき学習成果は以下の通り。 ア 学部間共通総合講座 学部間共通総合講座シラバスに明記している【4(1)-48-1】 イ 共通語学科目 各学部シラバスに明記している。 ウ 選択体育実技 選択体育実技パンフレットに明記している【4(1)-48-2】</p>					<p>4(1)-48-1 2014年度学部間共通総合講座シラバス《既出1-3》 4(1)-48-2 2014年度選択体育実技パンフレット</p>
(2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。							
a	<p>◎学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法などに関する基本的な考え方をまとめた教育課程の編成・実施方針を設定していること。 【約600字】</p>	<p>＜総合講座や情報関係科目等の全学部生が共通して履修できる科目の編成・実施方針＞ 本学の教育目標である「国際的に通用する多彩な個性と、自由と自治の精神を有する人材を養成する」ために、学部間共通の科目として、以下のような科目群を編成している。 学生の学問的視野を広げて問題発見能力や判断力を養うために「学部間共通総合講座」を開講している【4(1)-48-1:3頁】。この科目群には、初年次教育に資するための「図書館活用法」等の科目、キャリア形成支援科目としての「キャリア形成支援講座」等の科目、問題解決能力を養うために実習や協同学習を重視した「シェイクスピアを上演しよう」等の科目を置いている。</p>					<p>4(1)-48-1 2014年度学部間共通総合講座シラバス《既出1-3》</p>
(3)教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針が, 大学構成員(教職員及び学生等)に周知され, 社会に公表されているか							
a	<p>◎公的な刊行物, ホームページ等によって, 教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針を周知・公表していること。 【約150字】</p>	<p>シラバス, ホームページ等により, 教職員・学生・受験生を含む社会一般に対して周知している。</p>					<p>4(1)-48-1 2014年度学部間共通総合講座シラバス《既出1-3》 4(1)-48-2 2014年度選択体育実技パンフレット 4(1)-48-3 明治大学ホームページ(教育/学部・大学院 > 学部間共通総合講座) http://www.meiji.ac.jp/edu/gakubukan/index.html</p>
(4)教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか							
a	<p>●教育目標, 学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を検証するにあたり, 責任主体・組織, 権限, 手続を明確にしているか。また, その検証プロセスを適切に機能させ, 改善につなげているか。 【約400字】</p>	<p>年度第1回目の委員会において, 教育目標を確認, 検証している【4(1)-48-4】</p>					<p>4(1)-48-4 学部間共通科目運営委員会議事録(2014年6月17日)《既出1-5》</p>

2014年度学部間共通科目運営委員会 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>						
<p>(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき授業科目を開設し体系的に編成しているか</p>						
<p>必要な授業科目の開設状況</p> <p>a ◎CPIに基づき、必要な授業科目を開設していること。 【600字～800字程度】</p>	<p>ア 学部間共通総合講座 以下の7つの体系に分類して、開講している。【4(2)-48-1:3頁】 1) 初年次教育・リベラルアーツ講座 2) キャリア教育講座 3) 国際社会講座 4) 時事講座 5) ビジネス・専門実務講座 6) 明治大学講座 7) 実習・実技・実践講座 イ 共通語学科目 文及び経営学部設置のロシア語を法, 商, 文, 経営学部の学生に提供している。また, 文学部設置のスペイン語を政治経済学部の学生に提供している。 ウ 選択体育実技 和泉キャンパスにおいては文系7学部の設置科目を当該7学部の学生に提供し, 駿河台キャンパスにおいては選択体育実技を設置している法, 政治経済, 文及び情報コミュニケーション学部の学生に提供している。また, 生田キャンパスにおいては, 理工学部の設置科目の一部を農学部の学生に提供しており, 中野キャンパスにおいては, 国際日本学部の設置科目を総合数理学部へ提供している。 【4(2)-48-2】 必要な授業科目の開設状況としては、以下のとおりである。 ア 学部間共通総合講座 駿河台キャンパスにおいて36コマ, 和泉キャンパスにおいて24コマ, 生田キャンパスにおいて12コマ(うち黒川農場1コマ), 中野キャンパスにおいて4コマ, その他2コマの計78コマを開講(履修者総数: 5,978人)した。【4(2)-48-3】 イ 共通語学科目 和泉キャンパスにおいて, ロシア語12コマ(履修者総数: 266名), スペイン語1コマ(履修者数: 5名)を開講した。【4(2)-48-4】 ウ 選択体育実技 駿河台キャンパスにおいて23コマ, 和泉キャンパスにおいて67コマ, 生田キャンパスにおいて2コマ, 中野キャンパスにおいて12コマの計101コマを開講(履修者総数: 2,543人)した。【4(2)-48-5】</p>					
<p>順次性のある授業科目の体系的配置(履修体系図やコース系統図の明示, 科目相関図, 4年間の履修モデル, 適切な科目区分など)</p>						
<p>c ●教育課程の編成実施方針に基づいた教育課程や教育内容の適切性を明確に示しているか。(学生の順次的・体系的な履修への配慮) 【約400字】</p>	<p>学部間共通総合講座」は, 「学部間共通科目運営委員会」において運営しており, 2014年度は, 全てのキャンパス及び大学付属農場にて合計78科目を開講した。教育課程の体系は, 学生の学問的視野を広げて問題発見能力や判断力を養うために, 2014年度から「初年次教育・リベラルアーツ講座」「キャリア教育講座」「国際社会講座」「時事講座」「ビジネス・専門実務講座」「明治大学講座」「実習・実技・実践講座」の7つの体系に分類し, 学部や文理の枠を越えた学際的授業を提供している【4(2)-48-1:3頁, 9～11頁】。</p>					
						<p>Alt+Enterで簡条書きに</p> <p>4(2)-48-1 2014年度学部間共通総合講座シラバス《既出1-3》 4(2)-48-2 2014年度選択体育実技パンフレット《既出4-1-2》 4(2)-48-3 「学部間共通総合講座年度別講座数・履修者数一覧」(2014年6月17日開催共通科目運営委員会配付資料No.9-1) 4(2)-48-4 「2014年度共通語学科目履修人員一覧表(ロシア語・スペイン語)」(2014年6月17日開催共通科目運営委員会配付資料No.10) 4(2)-48-5 「2014年度キャンパス別選択体育実技科目クラス受講者数」(2014年6月17日開催共通科目運営委員会配付資料No.11)</p>

2014年度学部間共通科目運営委員会 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。						Alt+Enterで簡条書きに
教育課程の適切性の検証プロセスの明確化とその有効性						
d ●教育課程の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか	「学部間共通科目」の検証については、教務部委員会の下に置かれる「学部間共通科目運営委員会」が責任主体となり、学部間共通総合講座の他、共通語学科目、体育実技科目の学部間相互乗入れ等の共通科目について検証を行っている。検証のための指針は、各学部間における科目履修、単位修得の垣根を低くし、学部間共通科目化を推進することにより、2014年度は計3回委員会を開催した。改善点として、増加傾向にある講座の見直しを行うため、2014年度から、開講講座について、講師の担当授業回数の上限を設け、コーディネーターの役割を明確にする等の策定方針を改めた。【4(2)-48-2】					4(2)-48-2 「2015年度学部間共通総合講座の開講について」(2014年6月24開催教務部委員会資料No.6)《既出3-2》
(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき各課程に相応しい教育を提供しているか						
教育目標や教育課程の編成・実施方針に沿った教育内容(何を教えているのか)						
a ◎何を教えているのか。どのように教育目標の実現を図っているのか。 【400字程度】	学部間共通総合講座は、学部設置のカリキュラムを基礎としながら、なお学部や文理の枠を超えた学際的授業を提供することにより、学生の学問的視野を広げ、問題発見能力や判断力を養うものである。各々の講座は、各分野で活躍するゲストを招き、現代社会で話題となっている事柄、最先端のホットなニュース等をテーマに取り上げている。この講座を履修することにより、知的好奇心が刺激され、自分が学んでいることの意義と目標を再認識し、学習意欲を喚起することができる。講座の体系は2014年度よりテーマごとのカテゴリについて名称を含め見直し、「初年次教育・リベラルアーツ教育講座」「キャリア教育講座」「国際社会講座」「時事講座」「ビジネス・専門実務講座」「明治大学講座」「実習・実技・実践講座」の7つに分類しなおしたことで、学生にとってカテゴリごとのテーマが推測しやすくなり、興味を持つテーマとのマッチング環境が向上した。【4(2)-1-44】 2013年度開講科目のうち、特徴的な科目として、初年次教育としての「図書館活用法」がある【4(2)-1-45】。全学部学生が受講可能であり、2013年度は4キャンパスで7講座を開講し、約340名が履修している。「図書館リテラシー」「情報リテラシー」「学術リテラシー」の3つのリテラシー能力の習得を授業の目標とし、さらに学生が身に着けるべき28項目の具体的な学習達成目標を定めている【4(2)-1-46】。学習達成目標の達成度を図るために、「図書館活用法タスクフォース」が毎学期「総合テスト」及び「アンケート」の分析を行い、その結果を基に授業内容・教授法を改善している。最終授業時のアンケートでは、「図書館の資料、情報の探し方が分かるようになった」、「効率よく探せるようになった」という情報・文献検索に関する役立ちと、「レポート・論文の書き方の基本を知ることができた」というレポート・論文作成に関する役立ちが数多く挙げられ、本授業が学生の情報リテラシー、学術リテラ					4(2)-48-1 2013年度学部間共通総合講座シラバス 4(2)-48-6 第2回学部間共通科目運営委員会議事録(2013年7月5日)審議事項1「2014年度学部間共通総合講座授業計画策定方針について」

2014年度学部間共通科目運営委員会 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画		
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
	<p>シー能力の向上に効果を上げていることが示されている。これは、学習達成度を測定し、その「学習達成目標の再確認（追加、削除、統合等）」によって教育内容を組織的に改善してきた成果とも言える【4(2)-1-47】【参照：基準4(4)】。</p> <p>問題解決のための課題探求能力を高めるPBL (Project-Based Learning) 型の教育として、「明治大学シェイクスピアプロジェクト」科目がある。学生が自ら原作翻訳から舞台上演の企画運営を行い、実際に舞台を上演している。2013年度は56名の履修者があった。企画運営やキャスト（俳優）だけではなく、監督、演出、プロデューサー、照明や衣装などもプロスタッフの助言を受けながら学生が主となって担当する。11月上旬に「明治大学アカデミーホール」において5公演ほど上演し（入場無料）、例年3,000名以上の来場者がある。2013年度には本プロジェクトは10年目を迎え、「ヘンリー四世」を上演した（詳細は、基準4(3)「教育方法」を参考）。</p>						

2014年度学部間共通科目運営委員会 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>							
(1) 教育方法及び学習方法は適切か							
教育目標や教育課程の編成・実施方針と授業形態（講義科目、演習科目、実験実習科目、校外学習科目等）との整合性							
a	◎当該付属機関の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること 【約800字】	ア 学部間共通総合講座 本学教員に加え、広く学外からその分野の専門家を講師として招聘し、リレー方式で講義を進める。【4(3)-48-1:3頁】 イ 共通語学科目 学部設置科目のため、各学部による。 ウ 選択体育実技 学部設置科目のため、各学部による。					4(3)-48-1 2014年度学部間共通総合講座シラバス《既出1-3》
履修科目登録の上限設定、学習指導・履修指導（個別面談、学習状況の実態調査、学習ポートフォリオの活用等）の工夫							
c	◎1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置が取られていること。 【約200字】	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実について、所属学部及び入学年度により、履修に条件・制限がある。【4(3)-48-1:16～19頁】					4(3)-48-1 (既出1-3) 2014年度学部間共通総合講座シラバス
学生の主体的参加を促す授業方法（学習支援、TAの採用、授業方法の工夫等）							
e	●学生の主体的な学びを促す教育(授業及び授業時間外の学習)を行っているか。 【なし～800字】	<全学共通教育に関わる科目群の教育方法、学習支援> 学部間共通総合講座」の教育方法は、本学教員に加え、広く学外からその分野の専門家を講師として招聘し、一講座に対して複数の教員によるオムニバス形式で講義を実施している。講義科目のほか、プロジェクトの立ち上げから運営までのプロセスを主体的な参加から学び、自然や社会、現場の生きた知恵や技術から課題解決能力を育成する実習科目として、学生が自ら原作の翻訳から舞台上演の企画運営を行い、実際に舞台を上演する「明治大学シェイクスピアプロジェクト」のための科目である「シェイクスピアを上演しよう」【4(3)-48-2】や、2012年度前期から正規科目として設置し、大学と震災復興支援協定を締結した福島県新地町等での実習を通じて復興支援を実体験から学ぶ「東日本大震災復興支援ボランティア」、 「黒川農場実習」「図書館活用法」等を開講した。【4(3)-48-1】					4(3)-48-1 2014年度学部間共通総合講座シラバス《既出1-3》 4(3)-48-2 第11回明治大学シェイクスピアプロジェクト「道化と王冠」パンフレット
(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか							
a	◎授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること【約300字】	シラバスは執筆要領等に基づき、全ての科目において、シラバスの全ての項目について記述している。【4(3)-48-1】					4(3)-48-1 (既出1-3) 2014年度学部間共通総合講座シラバス

2014年度学部間共通科目運営委員会 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目		現状の説明	評価		発展計画		根拠資料
			効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。		C列の点検・評価項目について、必ず記述してください					Alt + Enterで簡条書きに
b	●シラバスと授業方法・内容は整合しているか(整合性、シラバスの到達目標の達成度の調査、学習実態の把握)。【約400字】						
(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか							
a	◎授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること。(成績基準の明示、授業外に必要な学習内容の明示、ミニマム基準の設定等、(研究科)修士・博士学位請求論文の審査体制) 【約400字】	シラバスの「成績評価の方法」欄に記載に基づいて行っている。所属学部及び入学年度により、履修に条件・制限があり、卒業要件単位として認定される単位数も学部ごとに異なる。					4(3)-48-1 2014年度学部間共通総合講座シラバス《既出1-3》

2014年度学部間共通科目運営委員会 自己点検・評価報告書

第9章 管理運営・財務 1. 管理運営

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
(1) 大学の理念・目的の実現に向けて、管理運営方針を明確に定めているか。						
a ●意思決定プロセスや、権限・責任(教学と法人の関係性)、中長期的な大学運営のあり方を明確にした管理運営方針を定めているか。 ●方針を教職員が共有しているか。	明治大学学部間共通科目運営委員会規程による【9-48-1】。					9-48-1 明治大学学部間共通科目運営委員会規程《既出1-2》
(2) 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか						
a ◎関連法令に基づく管理運営に関する学内諸規程の整備とその適切な運用	明治大学学部間共通科目運営委員会規程に基づいて行っている【9-48-1】。					9-48-1 明治大学学部間共通科目運営委員会規程《既出1-2》
(3) 付属機関等の業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか						
a ●事務組織の構成と人員配置の適切性 ●検証プロセスを適切に機能させ、改善につながっているか	ア 学部間共通総合講座 各学部担当の他、駿河台・和泉・生田・中野の各キャンパスに担当者がおり、授業計画の立案及び運営を行っている。人員配置は適切であり、機関として十分に機能できる状態にある。 イ 共通語学科目 学部設置科目のため、各学部による。 ウ 選択体育実技 学部設置科目のため、各学部による。					

2014年度学部間共通科目運営委員会 自己点検・評価報告書

第10章 内部質保証

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>						
<p>(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、結果を公表することで社会に対する説明責任を果しているか</p>						
<p>a ◎自己点検・評価を定期的実施し、公表していること 【約400字】</p>	<p>年度第1回目の委員会において、前年度の自己点検・評価報告書の確認を行っている【10-48-1 審議事項4】</p>					<p>10-48-1 学部間共通科目運営委員会議事録(2014年6月17日)《既出1-5》</p>
<p>(2) 内部質保証に関するシステムを整備しているか</p>						
<p>a ●内部質保証の方針と手続を明確にしていること。 ●内部質保証をつかさどる諸組織(評価結果を改善)を整備していること ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●学外者の意見を取り入れていること ●文部科学省や認証評価機関からの指摘事項に対応していること 【800字～1000字程度】</p>	<p>学部間共通科目運営委員会は、各学部の教授会から推薦された専任教員各1名、教務部委員会が必要と認めた授業科目を担当する専任教員若干名の合計15名で構成され、委員長は教務部長が充たる。 【10-48-2 第3条, 第5条】年度第1回目の委員会において、前年度の自己点検・評価報告書の確認及び年度計画書の策定を行っている【10-48-1 審議事項4】</p>					<p>10-48-2 明治大学学部間共通科目運営委員会規程《既出1-2》 10-48-1 学部間共通科目運営委員会議事録(2014年6月17日)《既出1-5》</p>